

令和1年7月19日(金)

生徒の皆さん、おはようございます。校長の野澤です。第1学期の終業に当たり、少し時間を頂戴してお話ししようと思います。

終業式には、いつもその学期に起きたうれしい出来事、残念な出来事を題材にしていましたが、今日は少し目先を変えます。本校のクラス担任の先生方の中には、学級通信を出していらっしゃる方が何名もおいでです。それぞれの先生方のお考えや、生徒の皆さんへの思いが感じられ、私は毎回、楽しみに読ませていただいています。学級通信の内容やスタイルは違いますが、共通しているのが、繰り返しクラスの皆さんに「目標や夢を持つこと」、「目指すこと」の大切さをアピールしていることです。

表現が少し適切さを欠くかもしれませんが、どうかお許してください。人間は、必ず死にます。永遠に生き続ける者などいません。そして、それを知りつつ生きる生物は人間だけです。限られた命を輝かせるために、だからこそ、人間は「目指す」のだと、私は思っています。

皆さんは、今、目標や夢を持って、日々の生活を送っていますか。何かを目指して汗を流していますか。その汗の一粒が、目標達成や夢の実現に向けた、小さいながら前進する一歩に等しいのだと、決して疑わないでいただきたい。しかしながら、目指すということは辛いことでもあります。目標や夢が大きいほど、時には、汗の一粒が涙のひとしずくになることがあるかも知れません。でも、覚えておいてください。涙のひとしずくがもたらす一歩は、汗のもたらす一歩に比べてはるかに大きいことを。苦しみを乗り越えるたびに、目標や夢は大きく近づくのだと、自信をもって申し上げます。

ただし、うまくいくことばかりではありません。目指しているあなたは、非常にしばしば傷つき、痛み、心の中で血を流すことがあるはずですが、でも、その血の一滴は、汗の一粒より、涙のひとしずくより、もっと大きく目標や夢への距離を縮めます。そして成し遂げた後、血を流した無数の心の傷が、強靱な鎧となってあなたを守り、達成した充実感や自信とともに自分自身を大きく成長させるのです。それを知っているからこそ、担任の先生方は、学級通信で「目指す」ことの大切さを説いているのだと思います。

この夏休みは、3年生にとって勝負の時ですね。進路実現に向けて、目指すことを忘れずに頑張ってください。1, 2年生、まだ先のことと考えずに、自分は何を目指すのか、それが見つかる夏休みであることを祈ります。

それでは、健康に気を付けて、皆さん、またここで2学期にお会いしましょう。終わります。